



# 2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

2020年10月29日

株式会社トーメンデバイス

(証券コード：2737)

<https://www.tomendevices.co.jp/>

本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確定の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

**I**      **2021年3月期 第2四半期 連結決算概況**

**II**      **2021年3月期 見通し**

**III**      **中期経営計画 取り組み**

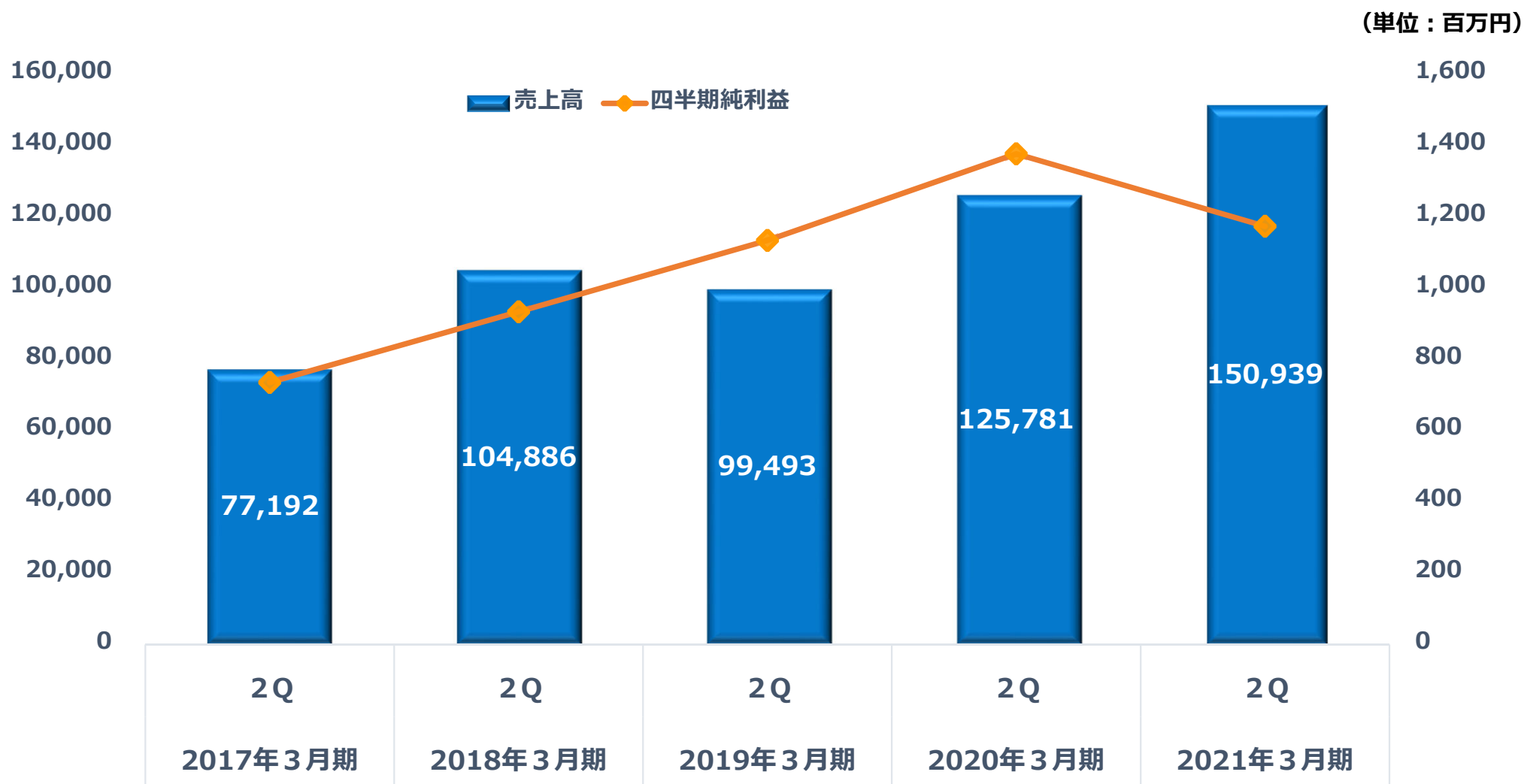
# 2021年3月期 第2四半期 連結業績サマリー



- ✓ コロナ禍におけるテレワークや巣ごもり需要等によるデータセンターおよびPC向けのメモリーの販売好調により売上は堅調に推移
- ✓ 市況の下落等の影響を受け利益は前期比マイナス

(百万円)	2019年2Q	2020年2Q	対前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	125,781	150,939	25,158	20.0%
営業利益	1,878	1,626	▲252	▲13.4%
経常利益	1,867	1,619	▲248	▲13.3%
純利益	1,376	1,172	▲204	▲14.8%
1株当たり純利益 (円)	202	172	—	—
総資産	103,252	104,139	—	—
純資産	29,869	32,007	—	—
1株当たり純資産 (円)	4,364	4,665	—	—
自己資本比率	28.7%	30.5%	—	—

# 2Q業績推移

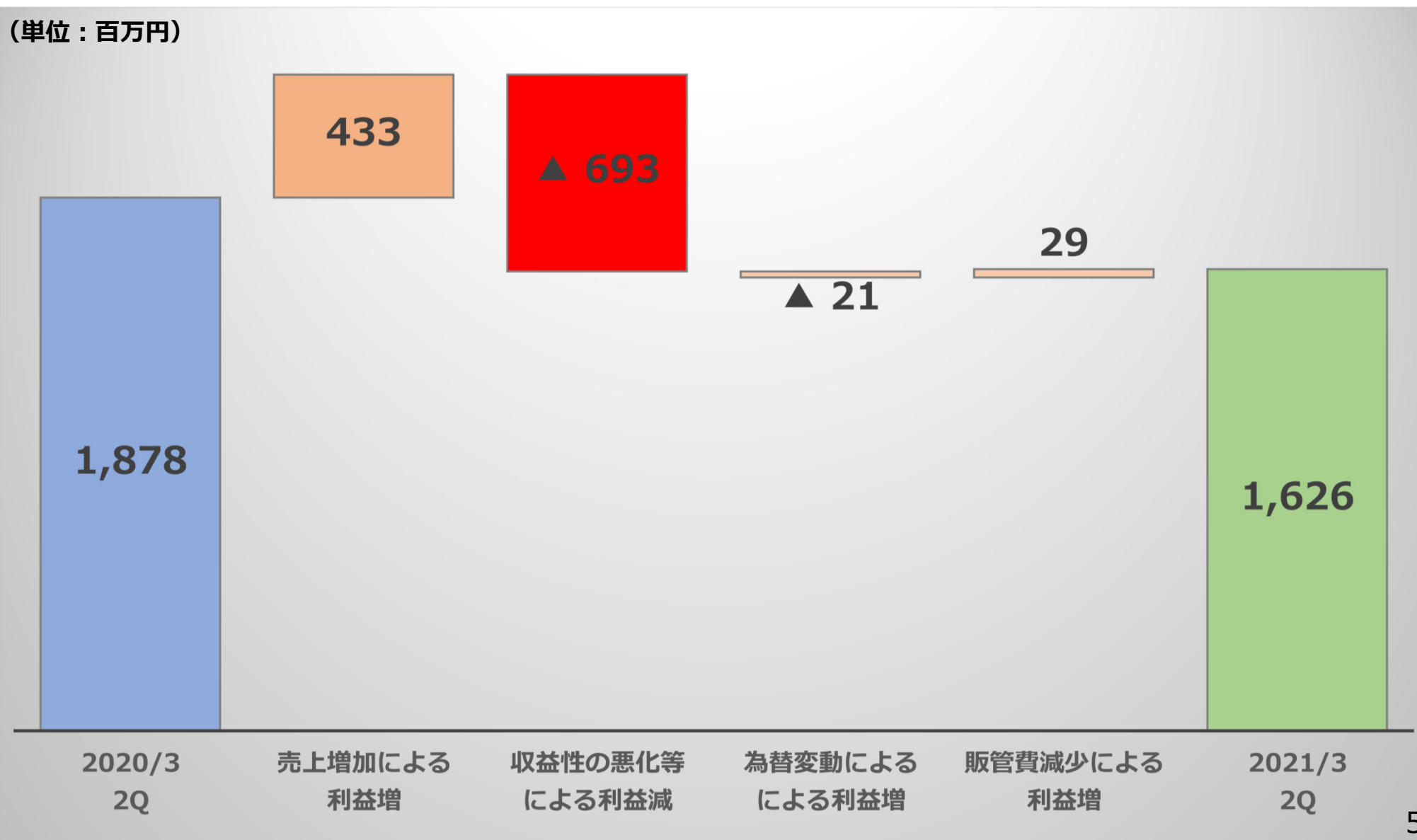


(百万円)	2017年3月期 2Q	2018年3月期 2Q	2019年3月期 2Q	2020年3月期 2Q	2021年3月期 2Q
売上高	77,192	104,886	99,493	125,781	150,939
四半期純利益	735	933	1,133	1,376	1,172

# 営業利益増減要因

売上は過去最高を更新したものの、  
メモリー価格の下落等により前期比減益となった

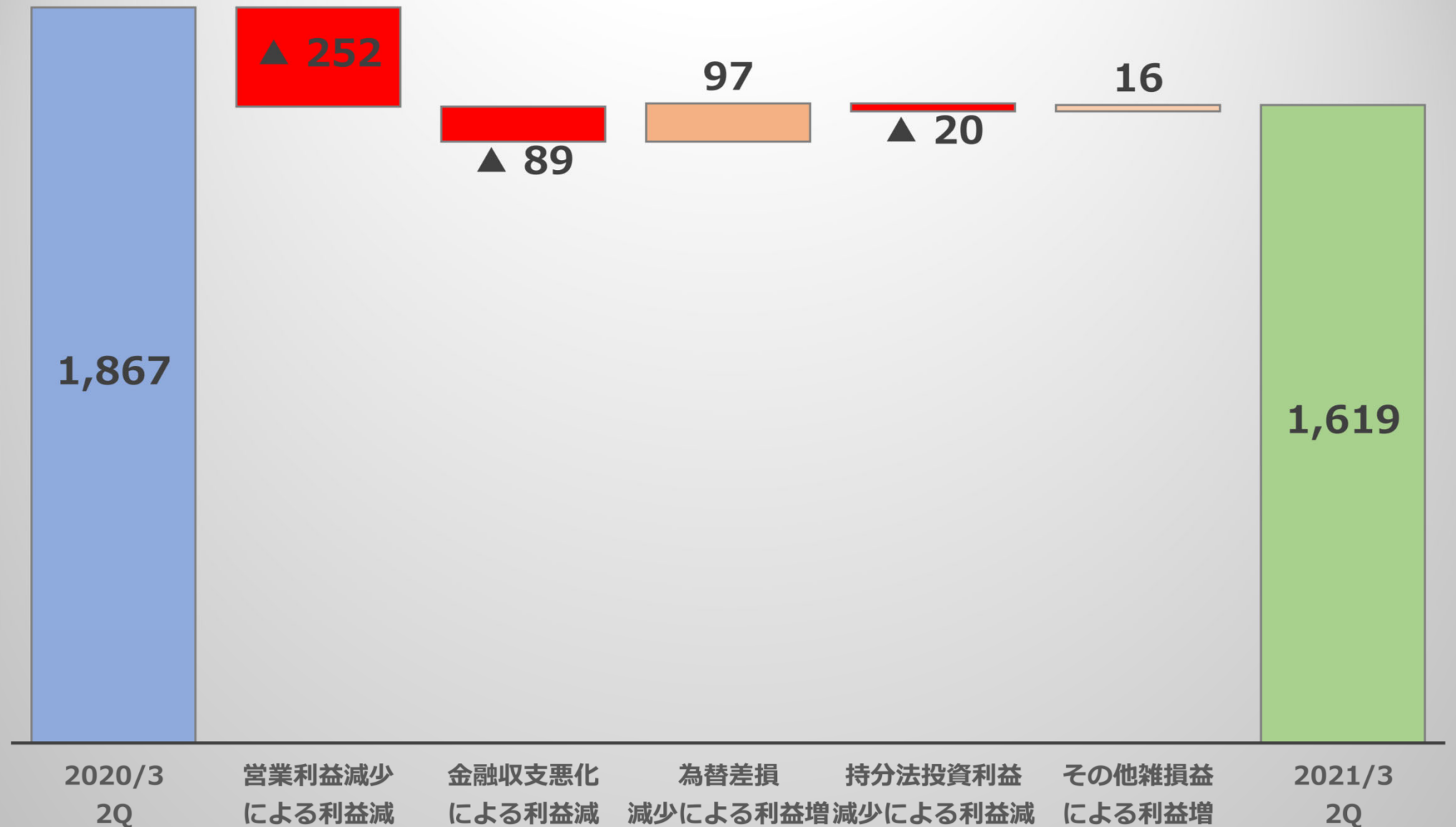
(単位：百万円)



# 経常利益増減要因

主に営業利益の落ち込みにより減益となった

(単位：百万円)





# 第2四半期決算トピック

サーバー・  
ストレージ向け  
需要好調

テレワーク  
需要

売上  
前年比  
+20%

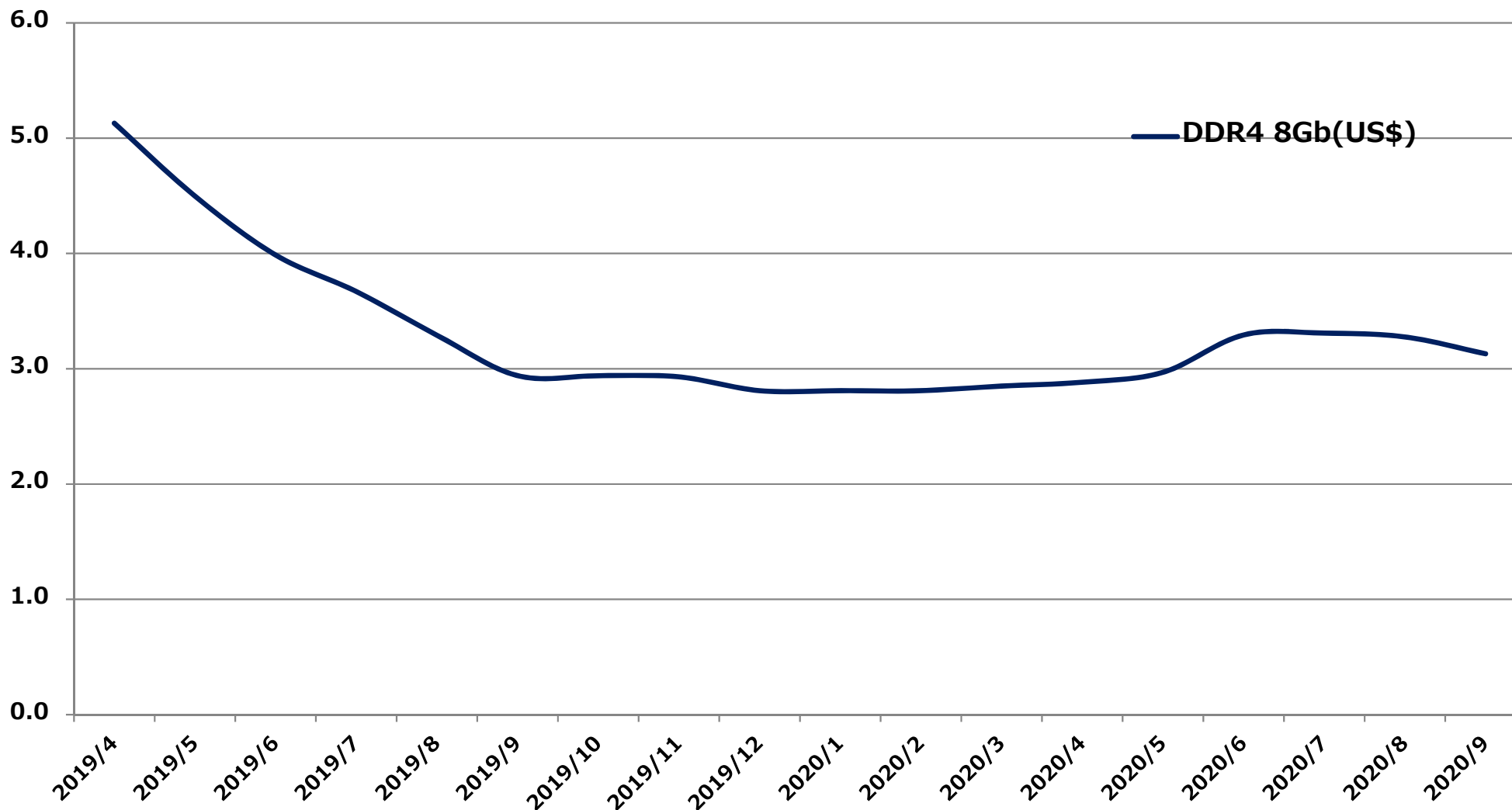
中国スマートフォン  
MCP/ CIS 拡販

Foundry  
・設備等  
新規商材

MCP : マルチチップ・パッケージ  
CIS : CMOSイメージセンサー  
Foundry : 半導体受託生産



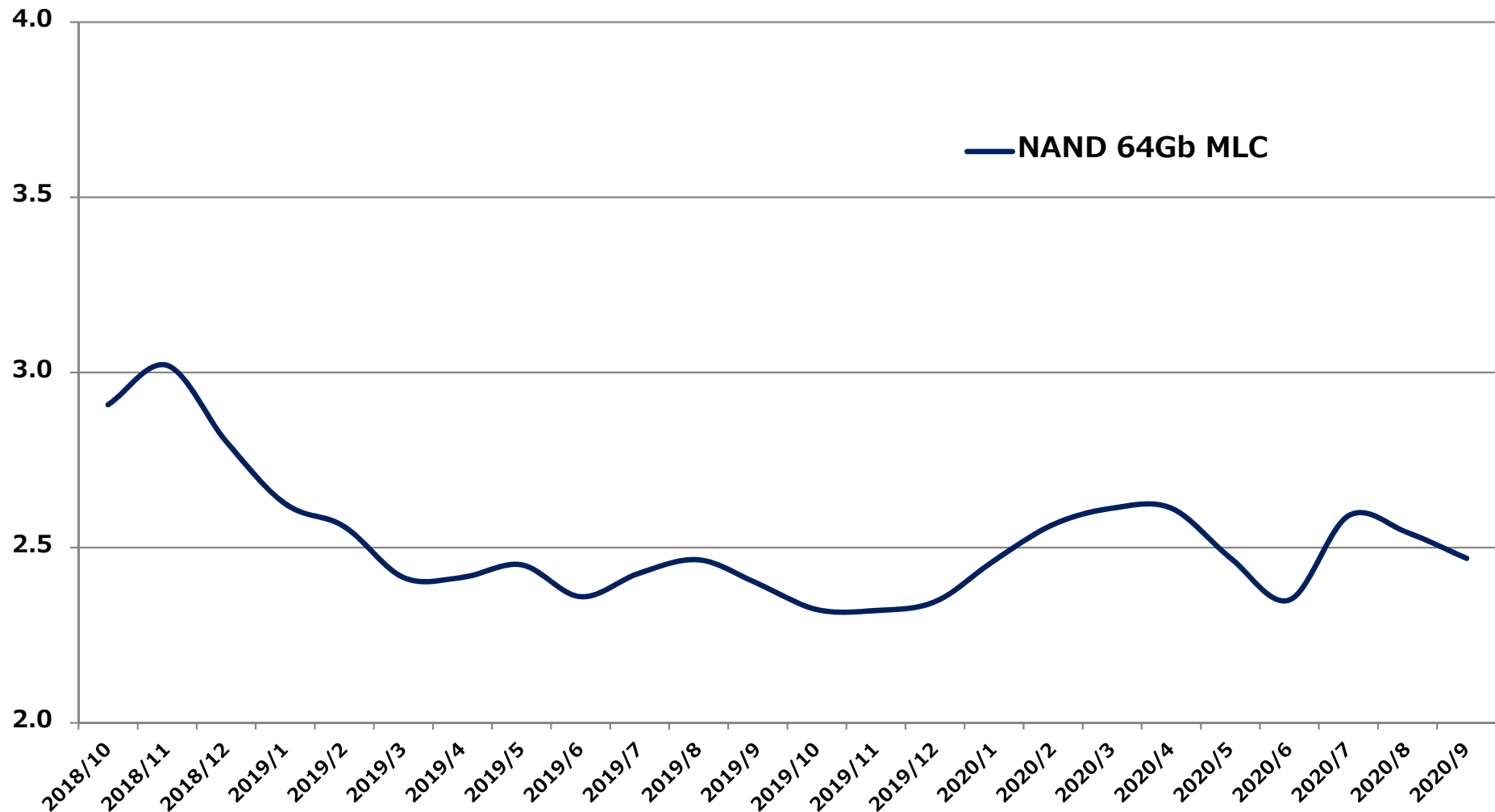
## 想定よりメモリー市況の下落が継続（大口価格）



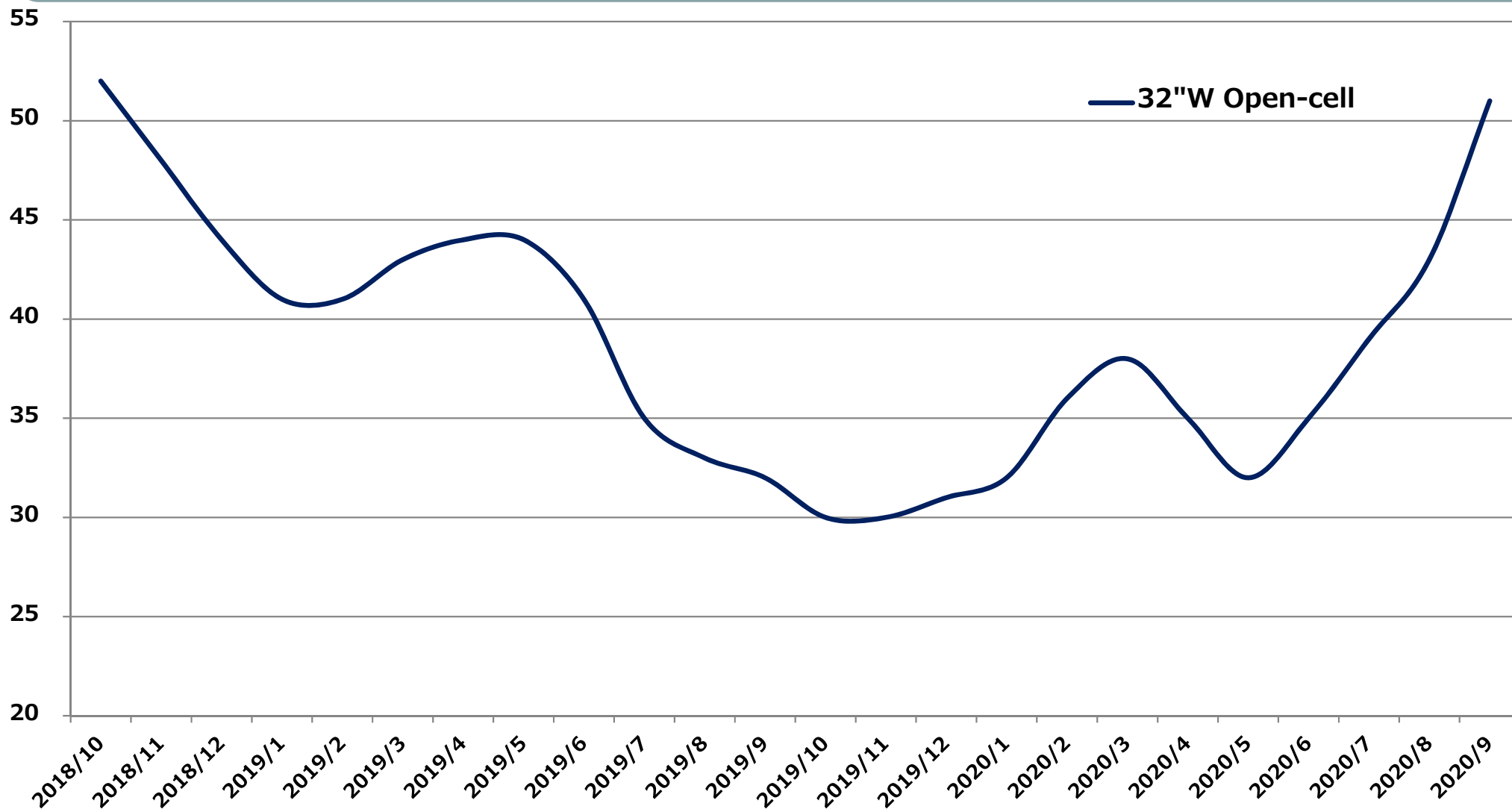
(単位 : USドル)

(出所) 各種資料をもとに当社で作成

PC向けのSSD向け等、需要は堅調だが価格は再度下落傾向

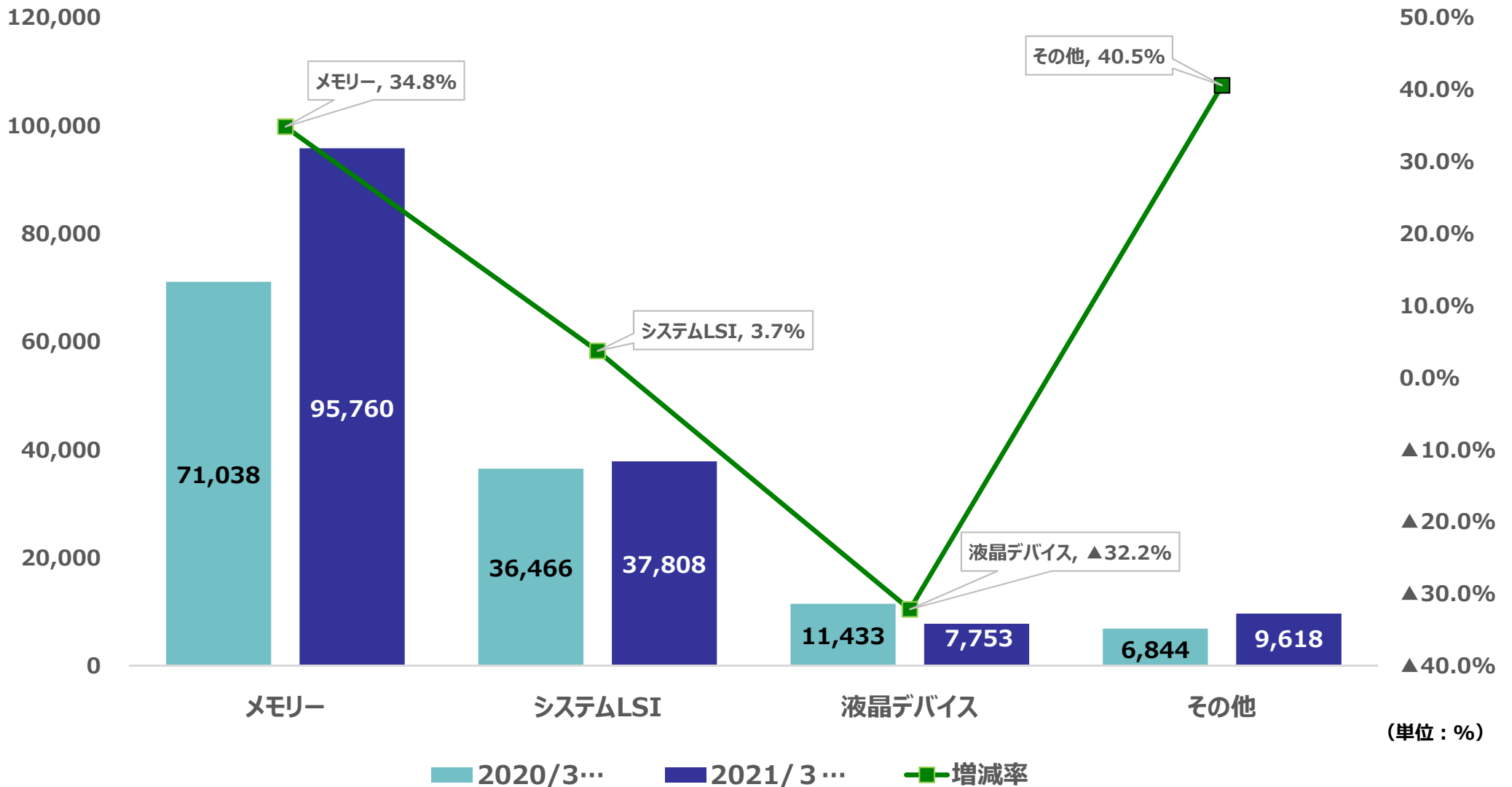


## 駆け込み需要もあり価格上昇



# 商品別 売上高推移

## ✓サーバー・ストレージ向けNAND FLASH製品の売上堅調



(単位：百万円)

(単位：%)

## メモリー +34.8%

- データセンターストレージ向けにNAND FLASH製品の売上好調
- 中国市場でスマートフォン向けMCPの販売増加

## システムLSI +3.7%

- 中国市場スマートフォン向けCIS増収継続
- ファウンドリービジネス拡大

## 液晶デバイス ▲32.2%

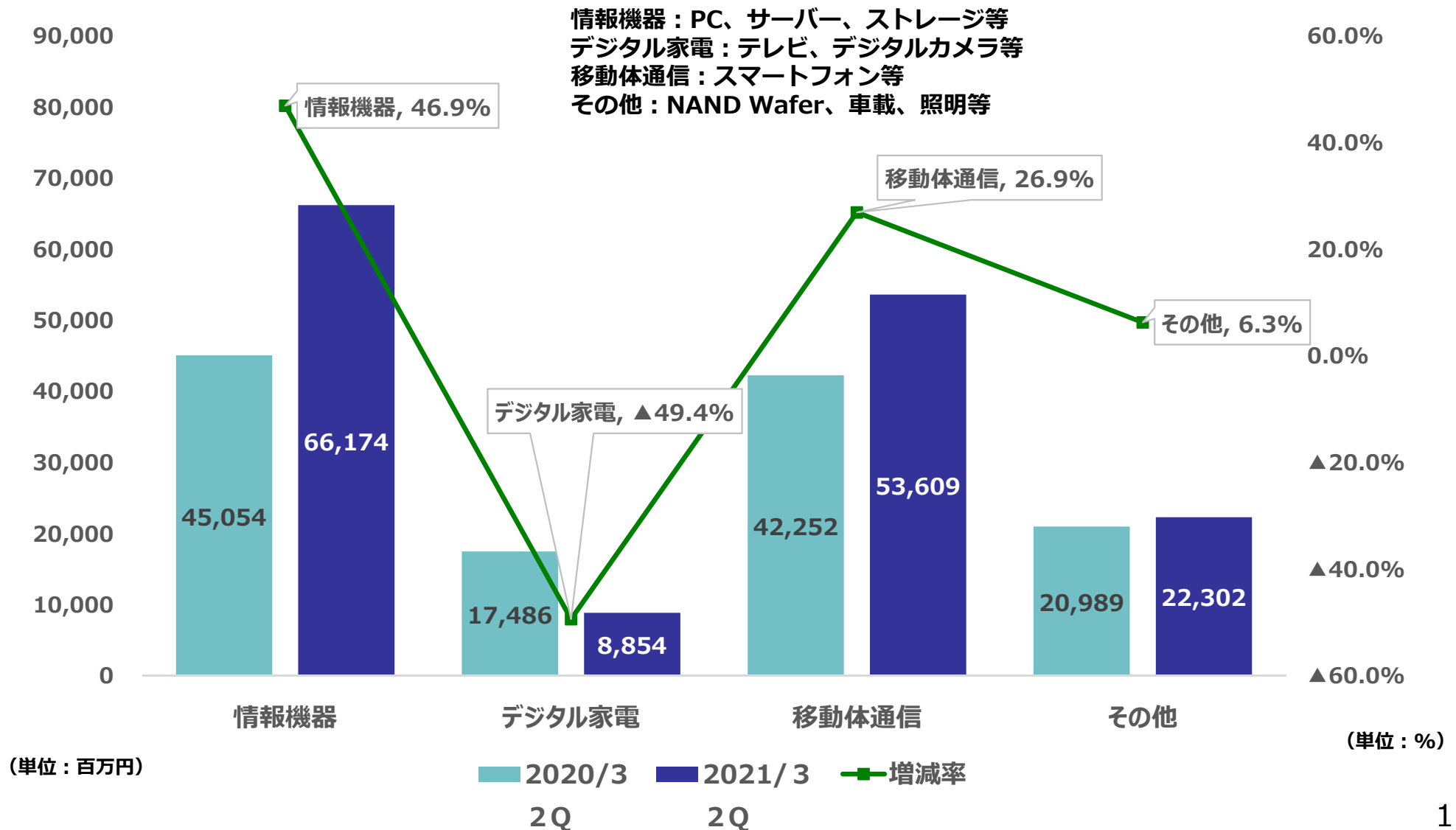
- 中国市場テレビ、モニター向け需要減
- 国内市場テレビモニター等駆け込み需要

## その他 +40.5%

- スマートフォン向け有機EL新モデル採用による増加
- バッテリー、設備等新たな商材の売上増

# 用途別 売上高推移

- ✓ サーバー・ストレージ向け、およびPC向けにメモリー拡販
- ✓ 中国市場でスマートフォン向けCIS好調



# 用途別売上高増減要因

## 情報機器 +46.9%

- サーバー・ストレージ向けにメモリー拡販
- PC向けにメモリー、有機EL拡販

## デジタル家電 ▲49.4%

- テレビ向けシステムLSI拡販もパネルおよびメモリー苦戦
- デジカメ等市場縮小による需要減

## 移動体通信 +26.9%

- 中国市場でCISおよびMCP販売増加
- 有機ELパネル採用拡大

## その他 +6.3%

- バッテリー、設備関連等新規商材の売上増加
- 中国市場で車載向けメモリー拡販



I

2021年3月期 決算概況

II

2021年3月期 見通し

III

中期経営計画 取り組み

# 2021年3月期 通期業績予想 (2020年5月22日公表)

(百万円)	2021年3月期 通期業績予想		2021年3月期 2Q実績		進捗率
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	245,000	100.0%	150,939	100.0%	62%
営業利益	2,900	1.2%	1,626	1.1%	56%
経常利益	2,800	1.1%	1,619	1.1%	58%
純利益	2,100	0.9%	1,172	0.8%	56%

## Positive

- NAND（ストレージ）ビジネス拡大継続
- 5Gスマホ加速、CIS高精細化
- 先行して回復した中国市場では投資が活発

## Negative

- 新型コロナウイルスの収束時期不透明
- 米中貿易摩擦等の影響で部品一部タイト
- 中国スマホの実販の伸びは鈍い
- メモリー市況継続下落の動き

➔ 収益性は保守的に見積もらざるを得ない

## 国内

- サーバー・ストレージ向け NAND FLASHの拡販継続
- 車載ビジネス深耕
- Foundry Biz拡大

## 海外

- アジア地域向けのモバイル端末等のメモリー販売強化
- 車載ビジネスへ事業拡大
- リスクマネジメント強化

## メモリー

- データセンター向けのメモリービジネスの拡大
- 車載D/I強化      • 単品ビジネスの拡大

## システムLSI・ Foundry

- CIS拡販強化
- Foundry：確実なキャパの確保

## 液晶デバイス

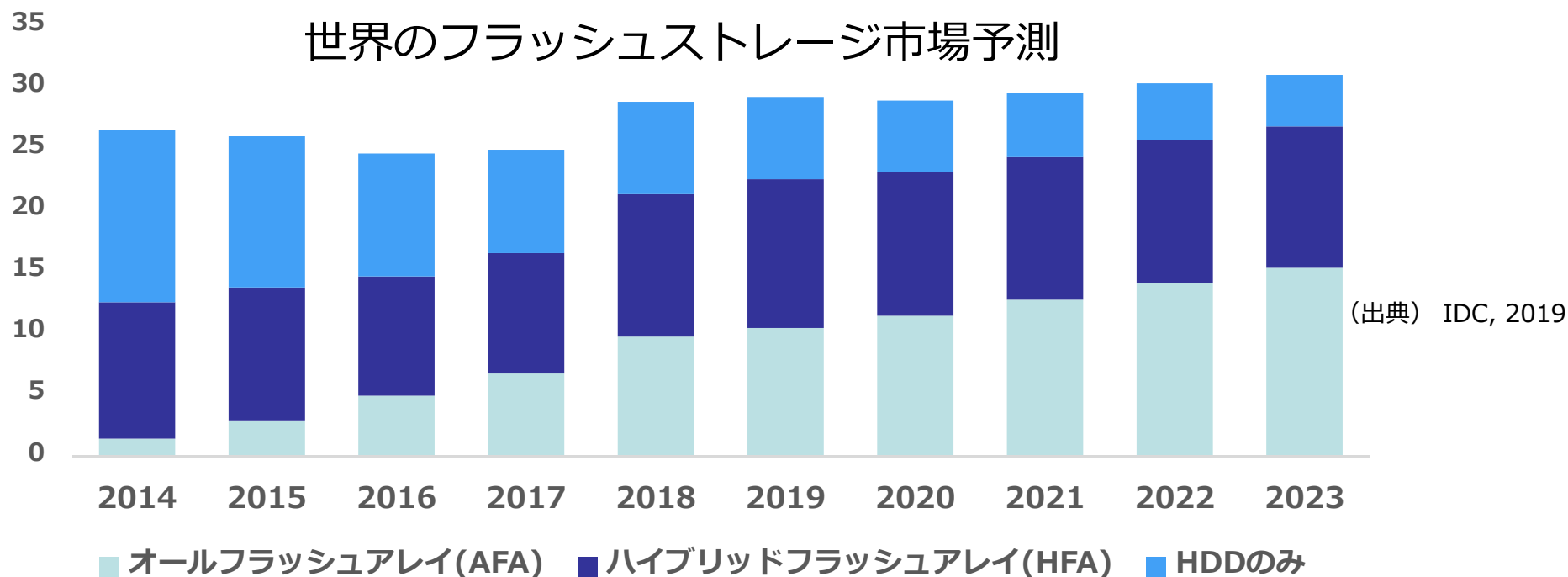
- 生産終了に伴う対応

## その他

- 有機EL、設備、電池、MLCC拡販

## 既存Biz

- ✓ サーバー・ストレージ、データセンター向け中心にNAND FLASH、SSDを拡販
- ✓ 顧客・サムスンとの戦略プロジェクト組成（マーケティング、販売、品質の切り口で成果追及）



## データセンター向け

- ✓ エンドまで掘り下げた拡販活動
- ✓ ODMメーカーと協業し、新規案件・顧客獲得を目指す

# 車載ビジネスの取り組み状況

- ✓ コロナ禍で対面でのデモや展示会等の開催は困難であるが、オンラインを活用した提案活動や情報交換を継続しリレーション強化を図る
- ✓ 豊田通商グループとの情報交換、人材派遣による連携強化加速

メモリー：D/I獲得・シェア維持・拡大に向け品質・技術サポートの継続  
メモリー以外：引き続き幅広く提案・種まき

## LED

ランプ・インテリア照明  
向けに提案



## 有機EL

ナビ、コックピット  
等向けに提案

## 車載関係

## CIS (CMOS Image Sensor)

ADAS、自動運転・  
向けにD/I活動

## MLCC・バッテリー

サポートの徹底に  
よる商権確保



# 新規ビジネス（モデル）の進捗

✓ あらゆる分野への参入を目指し積極的に取り組む

設備関連

売上に貢献、案件のフォロー  
新規獲得へプロモーション加速

産業用バッテリー

安定的な受注を確保  
アプリの拡大を推進中

サインージ・集合施設  
ソリューション

コロナ禍により案件遅延  
継続し新規顧客開拓

コロナ関連、セキュリ  
ティー関連商材発掘

新規分野へのD/I



# 新型コロナウイルス感染症への取組み

- ✓ 『COVID-19危機』から『The Next Normal』へ

## 取組み中の活動

- 在宅勤務等を積極的に活用した勤務形態へ移行
- オンライン会議等のツールを活用したコミュニケーション強化
- 安否システムによる、社員の健康状態や出社状況の報告・管理体制構築
- 在宅勤務アンケート等による役職員の心の健康ケア対策

## 今後取り組む活動

- デジタル上での顧客とのコミュニケーションの強化
- 各種ツール等を駆使し、業務効率を落とさず生産性の維持向上
- 社内事務の更なる電子化推進
- 在宅勤務のための環境構築や必要経費の補助検討

**I** 2021年3月期 第2四半期 連結決算概況

**II** 2021年3月期 見通し

**III** 中期経営計画 取り組み

# 中期経営計画（2020年策定）全体像

## 基本方針



## 中期経営計画 経営目標

- 売上高：3,000億円
- 当期利益：安定的に30億円
- ROE：安定的に8%を目指す

	2019年度	2022年度
売上高	2,600億円	3,000億円
当期利益	33億円	安定的に30億円
ROE	11.1%	安定的に8%

# 中期経営計画 上半期の取り組み

- ✓ 7つのワーキンググループを立ち上げ、各課題の解決のため議論を重ねる
- ✓ 社員1人1人が行動する意識を持つ改革をおこない、一丸となって重点課題に取り組んでいく体制を構築

## E nvironment (環境)



## S ocial (社会)



### ビジネスを通じ社会課題へ 貢献できる成長戦略

- TMD成長戦略
- ATMD成長戦略
- DX推進

- 人材育成
- 効率的な働き方

## G overnance (ガバナンス)

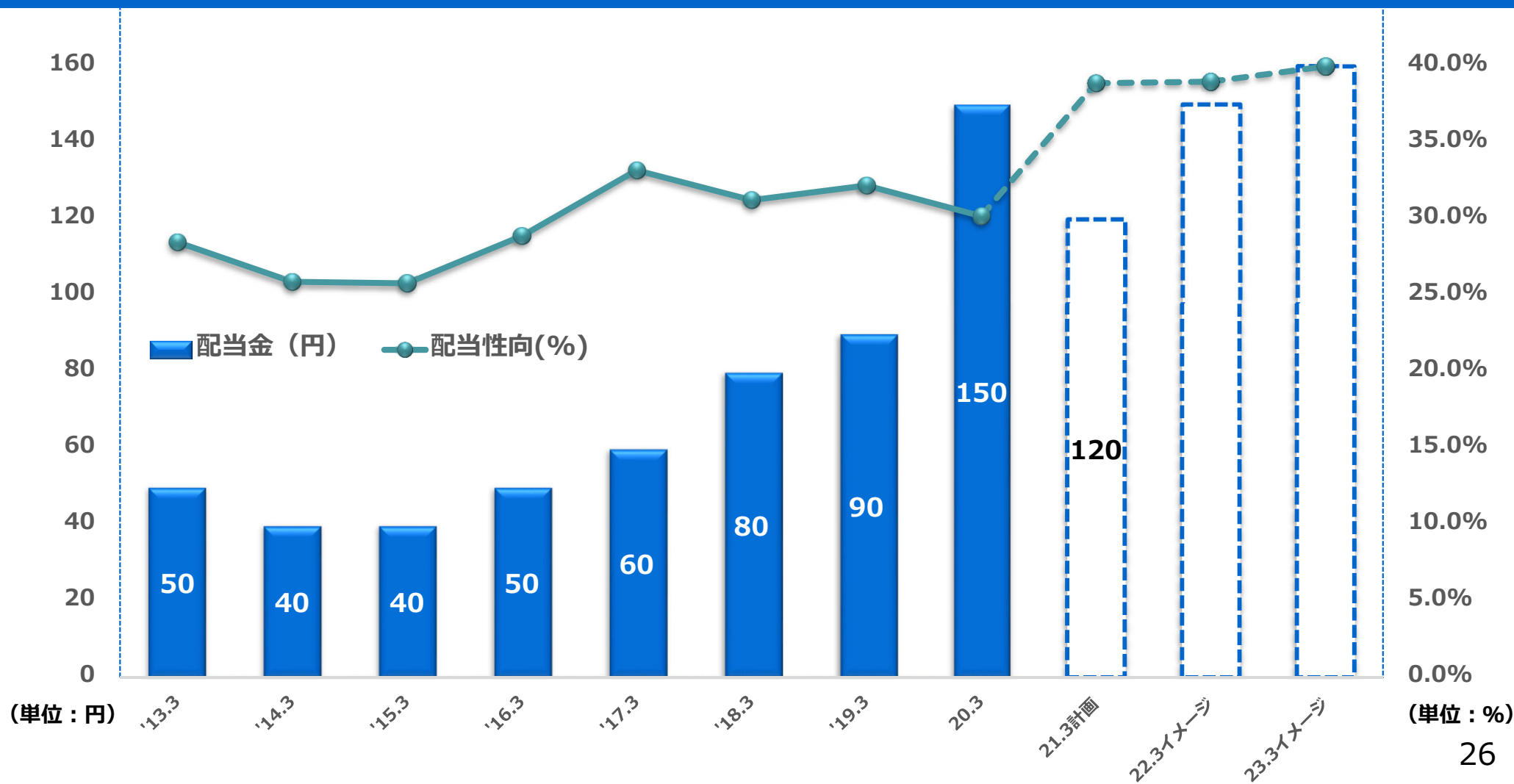


- ガバナンス強化
- コンプライアンス

# 株主還元の方考え方

## 中期経営計画における配当方針

- ✓ 連結業績に応じた業績連動型の配当
- ✓ 安定的な配当の継続を目指し、配当性向の引き上げを図っていく
- ✓ 経済環境の変化と資金需要等を勘案し柔軟に対処
- ✓ 内部留保は、激変する経済環境下における経営基盤の強化、事業拡大に伴う資金需要への充当および財務体質の強化に活用





ご清聴ありがとうございました

